

山行報告

■雪彦山・トレーニング

〈アルプ山行〉

- 日 程：3月15日(日)
- 参加者：L竹内 SL松下 尾内 岡田 河崎 須増 谷口 三木(悦)
- 行動記録：登山口9:18 発～展望岩(9:37 着)9:43 発～出雲岩(10:10 着)～覗岩(10:23 着)～セリ岩(10:28 着)～馬の背(10:40 着)～大天井岳(10:54 着)11:14 発～天狗岩(11:17 着)～地蔵岳登り口(12:21 着・昼食)12:39 発～虹ヶ滝(13:13 着)～登山口(14:05 着)

◆岩場にチャレンジ

尾内

山間の道を雪彦山駐車場を目指して、初めて登る雪彦山にワクワクドキドキしながら、車を走らせる。西の空はどんよりと曇っている。天気情報では天気は曇り、気温1度、降水量は0。

駐車場にはすでに多くの車が停まっていて、登って行かれるパーティーの後ろ姿に見とれる。

アイゼンをつけて登る人、大きなマットを背負って登っていく人。ロッククライミングの名所と言われるだけあって近郊の山でありながら普段と様子が違っている。場所も初めて、本格的に自己確保して登降するのも初めて、緊張感で落ち着かない。

登山口からいきなりの急登に遅れないように岩や木の根っこに注意しながら必死でついていく。登山道は、岩場の連続、地面を覆う木の根、濡れていて思わず滑ってしまった。

パーと開けたところが展望岩、岩が天井のように覆いかぶさった出雲岩を越え、セリ岩の細い岩の間をすり抜けて、馬の背の脇を通過して1時間30分程で大天井岳に到着した。小休止をしてここでハーネスを着けて、いやつけてもらって、手取り足取り教えていただきながら天狗岩の方へ下っていく。リーダーがロープを設置されたところをクレイムハイストで降りていく。

今まで土曜トレなどで何度か練習を重ねてきているのに現場ではうまくいかない。宙ぶらりん。足が届かない。不器用な私は焦って時間がかかってしまった。

途中、雨、頂上辺りでは雪にかわって、ますます足元が悪くなってきた。地蔵岳は濡れていて危険なので今回は見送り、鞍部で昼食を食べる。まだまだ険しい下りが続き気が抜けない。

長くて急な鎖場は雨雪は止んだが濡れていて滑りやすい、さらに慎重に下っていく。虹ヶ滝を過ぎ、無事にキャンプ場に戻ってこれた時は安堵と充実感で思わず顔が綻んだ。翌日、いつもにない腕の筋肉が痛かった。



今回、アルプのトレーニングに初めて参加させていただいて、とても貴重な体験ができました。これから、このメンバーの中で1つ1つ教えていただきながら装備を揃えたり技術を学んでいきたいと思います。

リーダー、サブリーダー、アルプのメンバーの皆さんお世話になりました。ありがとうございました。

■天狗山(明治の頃旗振り台があった山を歩く)

●日 程：3月20日(金・祝)

●参加者：La 砂川(延) SLa 島谷 天野 生永 大谷 佐野 小田(敏) 乙坂 西川
Lb 松下 SLb 三木(悦) 尾越 春本 平井 福原 森本 安田 矢根

●行動記録：JR 姫路駅 9:11 発～JR 寒河駅(10:12 着)10:30 発～八幡宮(10:35)～6 合目(11:15 着)11:20 発～小天狗(11:45)～天狗山頂上(11:55 着)12:25 発～三ツ池(13:10 着)13:20 発～【寒河下山組】下池(13:30)～JR 寒河駅(14:10 着)
【日生下山組】三ツ池(13:55)～寒河峠(14:25)～日生(15:10 着)

◆天狗山+たまちゃん or 日生ルート土こんなどころに美術館！

松下

新型コロナ騒動で六甲全山縦走が中止になり、久しぶりのハイキング。今日は岡山県備前市にある標高392mの天狗山に総勢18名で登る。この山は低山であるが展望がよく、かつては大阪の米相場を旗振りで中継・伝達したそうだ。

登山口は寒河八幡さまの下で、石段を上がってお宮の左手にある。少し登ると、目の前に鹿久居島、ブルーラインが繋がった寒河の街並みが見えた。山頂まで1.2kmの標識があって、サンキライの枯れたイバラの蔓に難儀しながらも所々に咲くミツバツツジの花が綺麗だった。小天狗(前山)辺りからは瀬戸内の風光明媚な島風景が見える。山頂に到着すると、360度のパノラマで小豆島が大きく見える。ここでお昼休憩にする。春の陽光を浴びて、ゆったりと皆さん思い思いのランチタイム。



下山方向は三ツ池の西側をまいて、傾斜が急なところには細いロープが張ってある。足元はシダが茂って見えにくい。ここを抜けると、岩場が所々ある。天狗山からシダ漕ぎしながら三ツ池を越えて、三ツ池分岐に着いた。

ここから各人の希望により、寒河へ下る8名の班と日生へ下る10名の班に分かれた。寒河へ下るのは待ち時間が約2時間のたまちゃん班で、日生へ下るのは道なき道を探る藪漕ぎ班だ。

三ツ池で仲間と分かれて、Sリーダーから山行前にもらった地図を見直し、寒河峠への林道でなくて、250、8mピークの手前のピークへ通じる踏み跡を、藪漕ぎしながら皆でかれこれ半時間ばかり探したが分からなかった。

結果、迷う前に元の場所まで戻って、林道を日生へ向かうことになった。

寒河峠からは県道260号を少し歩き、トンネルを抜けた辺りからハイキング道に入って40分ほどで日生駅の近くへたどり着いた。ここで再度、日生駅班6名と中南米美術館見学班4名

に分かれた。私はせっかくの機会なので、漁師町にある美術館を訪ねてみたいと思った。

BIZEN 中南米美術館は 1975 年 3 月開館で、日本では唯一の古代中南米美術専門美術館だそう
だ。メキシコからボリビアまでの 11 개국で出土した作品 2, 200 点を収蔵・展示してあるという
ことで、館長直々の館内ガイドを 2 階から 1 階
へと 2 度に分けて拝聴できたのもラッキーだっ
た。フロアを巡ると時折マヤ文明の甘い香が漂
う。現地の鳥のさえずりも聞こえてくる。

希望すれば、民族衣装の着用体験もできるそ
うだ。長寿だった古代の王様たちが愛飲してい
たというカカオの実、アーモンドを搗り潰した
古代のチョコレートを小さなカップで試飲させ
てもらった。もっとも、王様用のカップは井の
何倍もあるくらい大きかったが・・・。



また、館長直々に展示品の中からオカリナの元祖となる楽器を 3 種ほど吹いて、音色の違い
を聞かせてもらったりもした。古代マヤ文明が、さながら日本の戦国時代そのものであったこ
となどを熱く語ってくださって、帰り際にはチョコレートのお土産をいただき、玄関口のレプ
リカの前まで見送ってもらった。

それにしても風情がある建物だと感じたが、この美術館の外壁には 16, 000 枚以上の備
前焼の陶板をあしらってあるそうだ。

美術館を後にして 1 時間に 1 本の赤穂線電車に乗ると、寒河駅から 8 名のたまちゃん班が乗
ってきて、思いがけない再会のサプライズ op. まで付いた楽しい山行となった。

■七種薬師峰(鎌尾根)

●日 程：3月22日(日)

●参加者：La 藤本 SLa 矢根 天野 生永 小田(敏) 佐野 春本 安田
Lb 瀧原 SLb 島谷 笹木 田中(重) 平石 本田 山本(清)
Lc 尾内 SLc 松下 阿久津 乙坂 木下 土井 村上



●行動記録：村上ファーム 8:55 発～東尾根稜線(9:15 着)9:20 発～地獄鎌尾根(9:40 着)9:45
発～分岐点(10:35 着)10:40 発～七種薬師峰(11:05 着)11:30 発～十字峰(11:55
着)12:00 発～西尾根(12:35 着)12:35 発～三角点(岩ヶ谷)(13:15 着)13:15 発～ゴ
リラ岩(13:20 着)13:35 発～明王寺池(13:50 着)14:25 発～村上ファーム P (14:35 着)

◆七種薬師峰(鎌尾根)山行に参加して

本田

3月22日(日) 天気予報だと午後にはちょこっと☂マークが付いていて気になっていたが、そ
の☂マークも消えてたという声を聞きほっとした。

村上ファームの駐車場でストレッチを終えて、3グループ編成で出発。

たくさんの牛のつぶらな瞳に見つめられながら牛舎のそばを通り抜け、ごろごろ、がらがら
した坂道を 10 分ばかり登り、地獄鎌尾根入口に突入。地獄鎌尾根というだけあって岩肌がギザ
ギザと尖がり、まるで恐竜の背? のようだった。

三点確保が必要な岩場がたくさんあって、前の人と間隔を取りながら緊張して必死で登った。

岩肌ばかりを見つめていて周りの景色を楽しむ余裕は無かった。

11時過ぎ七種薬師峰山頂に到着。お昼ご飯を食べ、11時30分、下山開始。



分岐点まで同じ道に戻り、右手に曲がり、十字峰から西尾根を下山。下山道もやはり急な岩場が何箇所か有り「ゆっくり、ゆっくり慌てなくていいよ」とリーダーさんの優しい声を聞きながら、慎重に、慎重に緊張して下った。「雨が降らなくて良かったな」と何度となく思った。

三角点を経て「ゴリラ岩」の顔の上によじ登り、爽やかな春の風に吹かれて、綺麗に短冊形に整備された美しい田畑を見て、一息入れ、今度は山裾の明王寺池を目指し落ち葉で滑りながら下山。予定よりも余裕をもって全員無事に村上ファームに到着。

この七種薬師峰の山行は急登あり、岩場あり、可憐なスマレや三つ葉ツツジの花にも出会え、変化に富んだ楽しいコースで充実した満足感の残る山行でした。

企画して下さった藤本リーダーをはじめ、各グループのリーダーさん、一緒にした皆様、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

■高森ボランティア活動

- 日 程：3月21日(土)
- 参加者：黒本 佐々木 澤田(律) 砂川(延) 荘所 谷口 春本 藤原(千) 待場
- 作業場所：飯盛山への登山道（旧アクア交流館脇から尾根に上がり、飯盛山への分岐点までと、折り返してソーラーパネルの分岐点までの登山道）

報告：荘所・砂川(延)

作業内容としては、主に登山道脇の草刈り作業を行った。荘所さんが草刈機を使って、登山道脇の草刈りを行ってくれたので、効率よく作業を進めることができた。